

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームつどい（たんぼぼの丘棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームつどい（たんぼぼの丘棟）		
所在地	岩手県一関市中里字石川瀬13番地1		
自己評価作成日	平成 26年 12月 3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JisyosyoCd=0370901001-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人の意思の尊重」「利用者の行動・言動を受容し、笑顔ある生活を送っていただく」「季節感を感じ、心身的に刺激のある生活を送っていただく」を目標とし、一人一人に寄り添う時間を設け、安心して暮らせるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の加齢とともにそれぞれの思いや意向の把握が難しくなっている中で、管理者は、利用者本人の暮らしをお手伝いするという考えに従い、利用者が安心して暮らせる家庭的な場づくりを目標としてこれまで取り組んできている。特に地域との交流を通して近隣との信頼関係を大切にし、町内会の様々な行事に参加したり、野菜等のお裾分けなどを受けて、その地域の中で、一員として認められ、安心感を持って、ゆったり・のんびりした暮らしを目指している。職員は、利用者の「好きなこと」「得意なこと」などについて、小まめに把握・共有しながら、安堵のある暮らしに向けて支援している。平成26年10月には「重度化に対する指針」を策定し利用者・家族等の願いが実現し一層安心できるホームとして期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：認知症高齢者グループホームつどい（たんぼぼの丘棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所やリビングに掲示し、職員が意識しながら介護業務を行っている。	理念の唱和や確認し合うことなどは特にしていないが、理念をリビング等に掲示し、職員が普段において意識付けするよう留意している。なお、ケアプラン作成や介護する際には理念の意図を活かされるよう努めている。	法人や事業所の理念、また運営方針、スローガンなどの主旨・意図する内容をしっかり確認し具現化、活かし方の方策について話し合うことは非常に大切なことと考えますので一考されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月に地区行事のサマーフェスティバルに参加しました。散歩等にて挨拶や会話を交わすこともある。	普段の散歩を通しての挨拶や、近隣への立ち寄りを通して付き合いを深めている。長年の付き合いもあって顔見知りの方もでき、地域の一員として認識されている。町内会にも加入し、市の広報配布を受けたり、町内会総会や行事にも参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な事は行なっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動状況の報告を行い、参加者から意見・質問などをいただいている。	委員の理解も徐々に深まる中、委員からは食事の内容や待機者の状況などの話題が話されている。今後も、利用者と委員とのふれあいの機会を設けたりしながら、委員からの様々な意見提言を得たいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話などで連絡を取り合っている。お会いした際は状況をお話することもある。	市の職員とは、顔見知りの関係となっており、特に生活保護関係の利用者も多いことから、その担当者との繋がりが太い。また介護相談員の訪問も毎年あり、情報交換等を行いながら連携を図っているほか、普段は、電話等で相談・連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。学習会を行い、職員間で理解に努めている。	法人本部の研修受講やホーム内での伝達講習を行いながら、知識と技術の向上に努めている。今後は、言葉による拘束(制止や抑制など)について、職員会議などで共有・確認・実践していきたいとしている。なお、玄関の施錠は、夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を行い、理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を行い、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明を心がけ、ご家族の不安解消に努めるとともに、疑問点の有無の確認を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが、意見等が寄せられる事はなく、反映するまでに至っていない。	訪問時やプラン説明時の際に聞くよう努めているほか、2か月ごとに広報を発行したり、毎月の担当からの状況報告するなど、普段から家族等との関係性を高め、意見等を出し易い雰囲気作りに努めている。	ホームでは普段から利用者・家族との関係性を強めているが、タンポポ通信や毎月の利用料請求書の送付の際に「些細なことでも日頃においてお気づきの点についてお知らせください」といったメッセージ文をつけることも一考である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中で、業務に関する意見や提案を受け、検討している。	毎月の職員会議やミーティングなどを通じて聞いているが、個別ケアに関する意見はあるものの、運営に関する意見は少ないとしている。なお、予算の絡む案件は、管理者を通じて法人本部に繋げ、その実現を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内にて定期的に学習会を設け、日々の仕事に活かせるように努めている。外部の研修にも参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族に状態を確認し、生活状況や症状の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談が主となってしまいが、困っている事や要望など話を伺い、理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人やご家族の話を傾聴し、場合によっては他事業所を紹介したり、手続きについて説明を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・カーテンの開閉・ゴミ捨て・清掃などを一緒に行っている。職員は食事やお茶を同じ時間にいただいている。想いを共有し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画書の見直しの際には、ご家族に希望などを伺っている。面会時には状況を報告している。電話を利用し、声を聞く事で安心が得られるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば電話をかける支援を行い、関係保持に努めている。市内の馴染みの場所に出かけて思い出を振り返る場面を設けている。	家族の協力を得て、家族へ手紙を送ったり、電話をかけたりすることで家族との繋がりを深める工夫をしたり、また近所の方の来訪で昔の馴染み関係をつくるなど、家族の協力得ながら、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを2つに分け、入居者同士の関係がうまくいくように配慮している。表情や言動などから、関係や気分を察し、必要に応じ職員が間を取り持っている。必要に応じて席替えも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いした際は近況を確認するように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や言動から気持ちを察して、想いを汲取るように努めている。意思疎通が困難な入居者の方には、ご家族からの情報を得て、ケアに反映させている。	日常での利用者の何気ない会話や行動等から思いや意向の把握に努めており、またその内容をセンター方式(一部採用)を活用しその変化を整理して、それをケアプラン作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族にお話を伺いながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事・水分・排泄・バイタルのチェックを行い、申し送り情報収集しながら、入居者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・ご家族の意見をききながら、介護計画を立てている。毎月の会議にて、職員全員で意見を出し合いながら介護計画に反映させている。	月1回の職員会議でモニタリングを行い、状態変化があった場合は、管理者・計画担当者が協議し随時見直しを行っている。本人の好きなこと、得意なことを入れるよう特に留意し、家族の願い、意向も計画に反映させるよう意識している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や実践結果を記録している。ケアチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望に応じて、食事メニューを変えたりしている。また、病院受診や買い物など、ご家族の希望に応じて、職員対応で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の宅配サービスや訪問美容室を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居前からのかかりつけ医に通院し、御本人の状況やご家族と相談しながら受診を行なっている。	入居前のかかりつけ医の受診を原則にしている。通院同行は事業所で、特別な場合は家族に連絡して対応している。月1回、法人看護師が巡回し健康チェックや爪切りなどを行っており、その結果は家族と主治医に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来所している。来所時には、相談したり、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療関係者やご家族と情報交換や相談を行ない、入居者が不安なく暮らせるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人から終末期等のあり方を確認している。	平成26年10月に法人としての看取り対応に関する指針を作成し、重度化や終末期の対応に向けた説明を利用者・家族にした結果、希望する方がいるが、具体的な体制や支援手順などはこれから検討することになる。	看取り支援については社会的、また制度面からの要請が強くなっており当ホームでも指針が策定されたが、これを具体的に進めるために職員研修を実施し、知識や技術の習得向上に努められたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを明確にし、常時事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難経路の確認も行なっている。	年2回(うち1回は消防署立ち合い)通報訓練や夜間想定避難訓練を、近隣の方にも参加協力を呼びかけ行っている。職員も避難のみならず消火訓練等を実践している。今後、地域には具体的な支援内容を依頼したいとしている。	災害対応には地域の支援協力は必要であるが、危険が伴うためその役割を、例えば「利用者の見守りの役割」など具体的に明示し協力を得ることが重要と考えるので検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の会議で入居者個々について話し合い、その方に応じた対応を心がけている。	個々の生活歴を大切に、画一的な対応にならないよう、読書の好きな人は自由に読書する、その人にあった仕事を見つけて役割を果たしてもらうなど、その人の尊厳を大切にされた対応をしているほか、トイレ誘導は小声で、声掛けは、さん付けと注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがあった際には、話をきき、できる限り希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況に応じて希望者のみ散歩やウッドデッキで日光浴をする事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、女性は整髪を心がけ、必要に応じて声掛けや介助を行なっている。散髪は2カ月に1度、訪問美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや配膳の手伝いを積極的に行なっている。味噌汁の味付けや下膳、食器洗いを手伝ってくれる事もある。	献立は、法人本部の栄養士が作成し、食事は配食サービスを利用している。利用者は、配膳や下膳、茶碗・テーブル拭きなど、下準備のできることをしながら食事に関わっている。今後は、利用者が参加できる、おやつづくりなども考えていきたいとしている。	配食以外に、日々の食生活の中で例えばおやつ作りなど、ちょっとした「楽しみ」「喜び」等を味わう雰囲気作りの取り組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた形状の食事提供をしている。食事量・水分量は入居者ごとに記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行なっている。義歯利用者には、義歯洗浄剤を利用し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の希望や、定期的にトイレ誘導を行っている。夜間は、状態により、パット交換やポータブルトイレに誘導している。	排泄チェックによる適時適切な支援を行ってきた結果、入居時には、排泄失敗が多かった方が改善され、失敗も殆どなく排泄の自立に向かっており、職員も自信を持って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録観察を行い、便秘予防に努めている。毎日、牛乳を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の意向を確認しながら、入浴支援を行なっている。	週2回の入浴を目安としながらも毎日の入浴希望や入浴時間にも適時対応している。入浴を嫌う利用者もおらず、順調な入浴支援となっている。入浴時は音楽を聞いたり、歌ったり、職員と会話したりと楽しんでいる。柚子湯やしょうぶ湯等季節感を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況を配慮し、昼食後に午睡を勧めている。個々の好む場所で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員複数で確認しながら、服薬の支援を行なっている。用法・副作用については、処方箋にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な事を把握し、それを行なっていたり、気分転換をしていただいている。個々にあった役割が行なえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて、散歩やドライブに出かけている。	利用者の意見を聞きながら、花見や紅葉狩り、バラ園、白鳥観察など四季折々に応じて出掛けている。近くのスーパーまで買い物に出かけたり、家族の協力を得て本屋さんに行き、その帰りは外食をしたりと様々な形で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者さんの希望のものがある時は、ご家族の了解を得た後、職員同行し買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、関係保持に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の管理、天候により明るさを調整している。季節感のある装飾を心がけ工夫を行なっている。	窓から明るい光が差し込むリビングには、畳とコタツが配置され、コタツかテーブルのどちらかに利用者の好きな場所にゆったり座し寛いでいる。窓越しには隣家の、畑や野菜そして働く方も見え、自然や四季の変化が間近で感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日は気分に応じてウッドデッキでお茶や会話を楽しまれたり、体操・運動をして外気浴を楽しまれている。リビングでは音楽を聞いたり、塗り絵を楽しまれるなど、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使い慣れた家具や家電・寝具を持ち込み、居室で過ごしやすく配置している。	コタツやテレビ、机等を持ち込んでいる方や、使い慣れた時計やカレンダー、位牌、家族写真、手づくりの作品、整理ダンスを自分の過ごし易いように置かれ、また飾っている。居室の目印として入り口に暖簾をつるしている人など本人の自由に任せている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じて、居室の入り口に目印をつけたり、トイレは大きく分かりやすい表示にするなど工夫している。		